

八所宮御神幸祭 古式大名行列

八所宮御神幸祭・古式大名行列は、八所宮秋季大祭に行われる伝統行事です。近年はコロナの影響で神事のみ開催でしたが、四年振りに古式大名行列が行われました。

午後六時から境内で浦安の舞などの奉納舞台や御神幸に向けて本殿から神輿へ移る御盥洗の神事が実施されます。

大名行列は夜十時に八所宮を出発し、夜中の釣川の澄んだ水を神様にお供えする「お汐井取り（おしおいとり）」を行うため、釣川近くの「御飯所（おかりしょ）」まで「お下り（おくだり）」を行います。神事を終えた翌0時30分ごろ、行列は来た道を戻る「お上り（おのぼり）」を行い、午前二時ごろ八所宮へ戻ります。

大名行列に参加するのは地域住民五〇名で、御鷹と呼ばれる木彫りのタカを持った子どもからスタートします。小学生から青年まで、様々な役割があり、特に「白羽熊（しらはぐま）」「鉞（はさみ）」という掛け声と右斜め前、左斜め前とジグザグに進む歩き方は、八所宮の御神幸独特のものです。御神幸行列と合わせる一〇〇名以上の大行列となり、その様子は圧巻でした。



笛や太鼓の音に合わせ、行列はゆっくり進みます。



お下りの様子。本殿を出発した御神輿。



掛け声に合わせて、回転する白羽熊。

自然創造の神、六柱 日本の始祖、二柱 計八柱を祀る「八所宮」

宗像市の北東部、戸田山のふもとに鎮座する「八所宮（はつしょみやう）」は、自然創造の神六柱と日本国の始祖二柱（イザナギノミコト、イザナミノミコト）を祀っていることからその名が付けられたと言われています。

また、神武天皇が東征の際、八所の神が赤馬に乗り人民を指揮して皇軍を先導されたと伝えられており、この事からこの地域一帯に「赤馬庄（あかまのしらう）」の名が付き、後に「赤間」となったそうです。そして「吉野」と呼ぶようになったともいわれています。

天武天皇の御神託によって白鳳二年に現在の地に遷座したと伝わっています。本殿と拜殿は宝永六年に建築したとされ、江戸時代中期の典型的な神社建築様式を有しています。社殿を囲む原生林は、県指定の天然記念物です。御神木の「杜松（ねず）」の木「ヤイチイ樫、常盤柿などは主木とする一〇〇年以上の自然林は狂歌で幻想的な雰囲気です。

四夫婦八柱の神を祀る大宮の境内は安らぎに満ち、縁結び・家内円満・子安のご利益があり、さらに皇軍を先導されたという故事より交通安全の神としても多くの参拝者から親しまれています。

今回取材した秋季大祭は十月の第三土曜日・日曜日に開催されます。その他に、元日の歳旦祭（さいたんさい）、三月の春季大祭（祈年祭）、十一月の新嘗祭（にいなめさい）、大晦日の除夜祭など様々な年中行事が開催されます。

支度を終え、神楽舞を神様へ奉奏する前に参拝する舞姫たち。



神楽舞を奉納する舞姫たち

今回取材した八所宮は、古式大名行列など、伝統的な祭事が氏子や地域住民の手によって今もなお大切に受け継がれています。

神楽舞もまた、それと同じように、八所宮神前神楽舞保存会に所属する地域の小学生から高校生の舞姫たちへ受け継がれています。古来から受け継がれる、日本の伝統的な神前神楽舞。間近で美しい舞姫たちの舞いを拝見し、大変感動しました。

八所宮のほかにも、地域の文化祭や祭事などでも神楽舞を奉奏していますが、どこでも披露できるわけではありません。機会があれば、ぜひ見ていただきたいです。

【八所宮神前神楽舞保存会】
代表：立石優子
問い合わせ先：☎09083557735